

Q この事業の趣旨は何でしょうか

A 日本が培ってきた「木の文化」とそれを活かした多様な「木のおもてなし」について再評価し、新たな形の「木の文化」と「木のおもてなし」の創造・発信を目指す取り組みです。特に、急増する来日観光客等への「木のおもてなし」につなげながら、木を使った建築・空間や製品、サービス・体験の価値を向上させ、「木材利用の促進」や「木を起点とした地方創生」に資する取り組みを生み出すことを目指しています。

Q 経費負担の考え方を教えてください

A 本事業の運営事務局が、本事業の趣旨やモデル性の観点から、採択案件の内容や実施方法等について協議・調整させていただき、実施経費の実費の一部(30万円を限度)を事務局が支払う形態となります。詳細については、審査結果を踏まえての調整となります。なお、経費については、採択事業者・連携事業者の人件費等は対象外です。(また、実施内容の根幹をなす業務の委託はできません。)

Q ワークショップの形態はどのようなものがよいでしょうか

A 施設等で地域に根付いた伝統的な木の技術や文化を体験できるプログラムを実施するほか、「木の文化」のストーリー性に合わせて、地域の森林や施設、作り手等の複数の場所を回るようなツアー型、都市にある店舗やアンテナショップ等で木の文化に関するワークショップを行うなど都市と地域をつなぐ地域横断型の取組等、いずれも可です。森林・木材関係事業者(団体)、生産・加工事業者(団体)以外にも、観光、飲食、教育や健康関連、メディア等の幅広い業種・業態が関わっている内容が望まれます。

Q 海外来訪客の参加は必須でしょうか

A インバウンドの参加は必須ではありませんが、誘客の仕掛けやインバウンドへ対してどのようなプログラムを提供するか、そのためのツールの在り方、といった提案があることが評価の際には重要になると考えています。これらを実現するための事業者、関係者とも対話して、どういった方向性が考えられるかを意見交換して頂くと良いと思います。

Q 採択の基準はありますか

A ①提案内容、②提案内容(実施内容、参加対象、参加募集方法等)について汎用性、波及効果はあるか、③地域の実施体制、④今後の計画や自走化の可能性等を総合的に判断して決定します。

Q 映像撮影について教えてください

A 採択案件から2件程度について、映像制作を考えています。ワークショップの内容だけでなく、その元となる「木の文化」や「木のおもてなし」、そしてそれを作り上げている地域資源の特色(歴史・文化・気候風土・生業等)とその担い手の特色(技術・知恵等)にもフォーカスした映像とすることで、プロモーションに使えるような内容を想定しています。詳細は採択後、運営事務局と協議・調整の上、企画・制作します。

Q 地域ミーティングへの参加者の顔ぶれが、まだ全て決まっていません

A 企画の実現性の観点から、提案時に可能な限り、関係者が確定していることが望まれますが、調整中の場合は、交渉している組織等をご記入ください。なお、採択に際して、検討委員等の指導・助言を踏まえて、運営事務局と追加や調整等をお願いする場合も想定されることを、予めご承知おきください。

Q 公募は来年もあるのでしょうか

A 次年度の実施は未定です。今年度、各地域でのモデル実証を通してノウハウを蓄積し、地域の「木の文化」や「木のおもてなし」の魅力・価値を、ストーリー性・訴求力のある形で効果的に伝える方法を集積することで、来年度以降に自走化、あるいは県産材利用促進や地方創生等の補助金でも取り組めるモデルの構築を目指しています。